

東北大学大学院歯学研究科 インターフェイス口腔健康科学 第38回学術フォーラム

Forum for Interface Oral Health Science

感覚刺激を介する摂食嚥下障害対策及び 誤嚥性肺炎予防

海老原 覚 先生

東北大学加齢医学研究所 加齢老年医学研究分野
東北大学病院 老年科 院内講師

平成21年3月3日(火)17:00～
歯学部B3講義室(歯学部実習講義棟3階)

これまで摂食・嚥下障害のある高齢者の食事はとろみなど物性の面にのみ重きが置かれてきた感がある。しかしながら、我々は高齢者の嚥下反射はたとえ障害されていても温度感受性であることを見出した。我々の嚥下反射を活性化する温度領域の結果より、これまで同定されている6個の温度感受性TRPチャンネルのうち、TRPV1, TRPV2, TRPM8, TRPA1が嚥下反射の活性化に関与する可能性が示唆され、TRPV1及びTRPM8刺激による摂食嚥下改善法を開発した。さらに非常にADL・意識レベルの悪くてとても経口の方法がとれないような高齢者にたいする摂食・嚥下改善法として嗅覚刺激による方法を考案した。それは黒コショウの匂い刺激である。この方法により誤嚥と関係のある脳血流低下部位を回復させることができ、嚥下反射が改善した。この匂いの薬効成分はナノ粒子であり、これを持続的に患者の嗅覚神経に到達させる簡便な方法、ナノ粒子ドラッグガスデリバリーシステムを開発し、市販されている。このような感覚刺激を介する方策は、高齢者の高次脳機能を活性化する摂食嚥下障害対策と考えられ、有望な方策と考えられる。

連絡先: 第38回モデレーター 佐藤 しづこ(内線 8390)